

2022 年度実施概要

学校名

洋野町立角浜小学校

採択活動名

海洋学習「ふるさと角浜」について

実施単元

単元名	学年	教科
1. 海となかよし ～角浜のよさをつたえよう～	1・2年	生活科
2. 角浜調査隊 ～角浜について知ろう～	3・4年	海洋科
3. ふるさと角浜 ～角浜の未来について考えよう～	5・6年	海洋科

取り組みの概要

《実践の概要・ねらい》

豊かな海を素材の中心とした体験的な活動や探究的な活動を通して角浜地区にある自然や社会、人々の工夫や努力、願いへと徐々に視野を広げ、「ふるさと角浜」を誇りに思う気持ちを育てる。また、課題解決にあたって地域の良さや先人の知恵と志の高さ、産業と自然、社会との関わりを多面的・総合的に考え、学んだことを主体的に表現する子どもを育てることを目指した。コロナ禍や天候の影響で、当初の計画通りにできない活動もあったが、修正を加えながら様々な体験活動を行い、児童の学習を深めることができた。

《全校での活動》

○角浜漁港付近の磯掃除を実施した。これは、特産品であるウニのえさとなる海草を食べてしまうツブの駆除と海岸のゴミ拾いを目的として毎年1学期に行っている。ツブが少なかった昨シーズンとは違い、今年度はたくさん駆除することができた。地域の海の豊かさを感じることができた。

○校内海洋発表会を実施し、各学年の学びの成果を見合う機会をもった。授業参観として保護者の方に見ていただき、感想を書いていただいた。学習の成果を認め合うとともに次学年の学習を見通すことができた。

《1・2年生の取組「海となかよし」》

○地域の海に親しむ活動として磯遊びを行い、魚やカニ、ヤドカリ、ツブなどの生き物を捕まえて観察した。実際に生き物を見たり触ったりすることで、自分たちの住む地域の海を身近に感じ、親しむことができた。

○海の様子を想像したり、思い出したりしながら、絵で表現する活動を行った。体験したことから「こんな海があったらいいな」「こんな海がきれいだったな」と想像を広げ、「海の生き物となかよし」の絵を描いた。

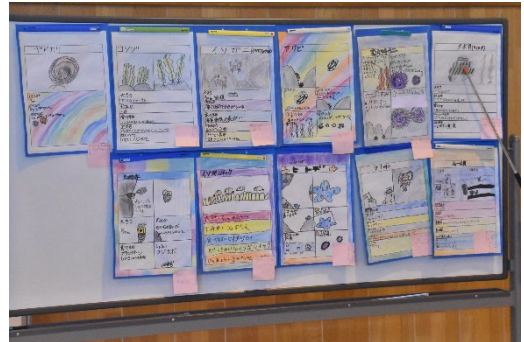


○地域の施設見学を行った。海や地域の人とふれ合うことで、地域の様子について詳しく知ることができた。わかめ製品の加工販売を行う施設を見学し、わかめの芯を取ったり、商品の袋詰めをしたりする体験を通して、働く人の苦勞を知ることができた。また、天然わかめと養殖わかめの食べ比べをして、海めぐみの豊かさを感じることができた。



《3・4年生の取組「角浜調査隊」》

○グループごとにテーマを決め、クボ貝（ツブ）を活用するメニューを考案した。ウニのためにクボ貝は駆除するが、海の食材であることを実感するとともに、地域の食材についての知識も広げることができた。



○磯掃除の時にみつけた水生生物について、生態などの特徴を調べ、図鑑にまとめた。角浜の地域に生息する水生生物への関心を持ち、生き物の命の大切さを改めて考えた。

○北三陸を走るレストラン列車に向けたエモーション活動を角浜駅で行った。今までの学習を生かし、洋野町・角浜の良さを伝えるための絵やメッセージを盛り込んだ手旗を作成した。また、エモーション活動のはじまりを調べることを通して、復興学習へもつなげることができた。



《5・6年生の取組「ふるさと角浜」》

○地域の特産品であるワカメを取り巻く現状についての学習をした。乗船体験をして天然ワカメが生えている様子を実際に見学したり、地元の漁師さんにワカメの生態やワカメ漁について教えていただいたりした。ワカメを育てるうえでの漁師さんの苦勞や工夫などを知ることができた。



○学習したことを生かす場として、海洋サミットに向けて「ワカメのプロフェッショナルに学ぶ」と題し、①ワカメの生態について②ワカメ漁業と流通について③ワカメ料理についてまとめた。児童の柔軟な発想で、プレゼンテーションソフトにまとめたり、ペーパーサートを使ったりと、学んだことや考えたことを分かりやすく伝えようと意欲的に活動し、表現力を高めることができた。



○海洋教育子どもサミットに参加し、東北地方の小中学生の取組を Zoom を通して交流した。様々な学校の取り組みを知ることで、今後の学習と視野を大きく広げる機会となった。

